

クレジット:

UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2020 張政遠

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



被災地そして香港

張政遠

自己紹介

- 香港出身（1976年）
- 仙台留学（2000～2007年）
- 香港中文大学文学部講師（2007～2020年）
- 東京大学大学院総合文化研究科准教授（2020年～）
- 研究分野：哲学（日本哲学）

→ 30年後の世界？

We know what we are,
but we know not what we may be.
(Hamlet)

どうなるか分かりませんが

- 30年後に、おそらく、学生たちはまだこの世にいて、私はもうあの世にいったでしょう。しかし、未来を想像することは誰にもできるはずです。今日は、30年後の世界について一緒に想像してみたいと思います。具体的には、**2050年**という時点には、被災地と香港はどのように物語られ、そして忘却されるのでしょうか。

2011年3月

著作権等の都合により省略しました
東日本大震災に関するメールの文面

2011年12月

石巻（家屋の基礎？ 哲学の基礎？）



2012年3月

公開シンポジウム： 大震災と価値の創生

International Conference: Disaster and the Creation of Value System

東日本大震災から一年目を迎えるとしています。地震と津波による被害とそれに続く福島原発事故は、これまで私たち文明のものととして安住してきた価値観、自然観、文明観などを大きく揺さぶりました。被災地で復興・復興への努力が続けられているなかで、大震災が突きつけている根本的な問いを受け止め、私たちのライフスタイルを考え直すために、東北大学大学院文学研究科は香港教育学院と協力し、国際交流基金の援助ならびに Spirit of the Tohoku University 2011 の協賛をえて、「大震災と価値の創生」をテーマに2日間をわたり公開シンポジウムを開催する運びとなりました。

基調講演には日本文化研究で知られるフランスの地理学者オギュスタン・ベルク氏をお迎えしています（著書に『風土の日本』、『空間の日本文化』ともにちくま学芸文庫＞など）。ほかに川本隆史氏（東北大学）と野家啓一氏（東北大学）の対談、竹内豊一氏（鎌倉女子大学）および鈴木岩弓氏（東北大学）の特別講演などがあります。震災後一年を経ようとしている現在、私たちがどのような「生のかたち」を目指すべきかを市民の皆様とともに考えて行きたいと思っています。多くの方々のご参加をお待ちしています。

基調講演 題目：災害、世俗性、物の哀れ：これから日本の風土性は？



講演者：オギュスタン・ベルク（フランス国立社会科学高等研究院）
使用言語：日本語

対談 題目：大震災以後の「物語り」と「ケア」



講演者
川本隆史
東北大学



講演者
野家啓一
東北大学

特別講演

講演者：鈴木岩弓（東北大学）
題目：東日本大震災における土葬の採用—現代日本人の死者観—

講演者：竹内豊一（鎌倉女子大学）
題目：「無常」を生きる力——「はかる」と「はかりえない」こと

プログラム

2012年3月9日(金) <第1日目>

13:00-	オープニング・セレモニー
13:30-	基調講演：災害、世俗性、物の哀れ：これから日本の風土性は？ 使用言語：日本語 オギュスタン・ベルク（フランス国立社会科学高等研究院）
15:00-	休憩
15:15-	特別講演：「無常」を生きる力——「はかる」と「はかりえない」こと 竹内豊一（鎌倉女子大学）
16:15-	休憩
16:30-	人はなぜ救えて逃げないのか 張政遠（香港中文大学）
17:00-	3・11における「近代の超克」—価値の再考— 林 永雄（香港教育学院）
17:30-	ボスター教授の説明（B棟1階学生ラウンジ）
18:00-20:00	懇親会

2012年3月10日(土) <第2日目>

10:00-	最初の衝撃—自然、人間、テクノロジー 齋藤道子（西ワシントン大学）
10:30-	3・11の思想的可能性—哲学と日本学との間— ハンス・ベーター・リーダーハッハ（関西学院大学）
11:30-	3・11大震災にソフト・パワーが果たす役割—アニメから震災復興への道 渡 文慧（香港教育学院）
11:30-	昼休み
13:00-	原発事故と価値の転換 西江清隆（東北大学）
13:30-	哲学と震災後の価値転換 廖 鈞彬（台湾中央研究院）
14:00-	被災者と私権——「もの」の価値と精神的個性をめぐって 田口 茂（山形大学）
14:30-	休憩
15:00-	特別講演：東日本大震災における土葬の採用—現代日本人の死者観— 鈴木岩弓（東北大学）
15:30-17:00	対談：大震災以後の「物語り」と「ケア」 川本隆史（東北大学） 野家啓一（東北大学）

場所：東北大学川内北キャンパスマルチメディア教育研究棟

主催：東北大学大学院文学研究科 香港教育学院

協賛：国際交流基金、Spirit of the Tohoku University 2011

問い合わせ：東北大学 哲学・倫理学会合同研究室（藤尾：nsntg153@ybb.ne.jp、Tel/Fax:022-795-6012）

ウェブサイト：<https://sites.google.com/site/tohokuconference311/>

入場料：不要



東北大学川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟

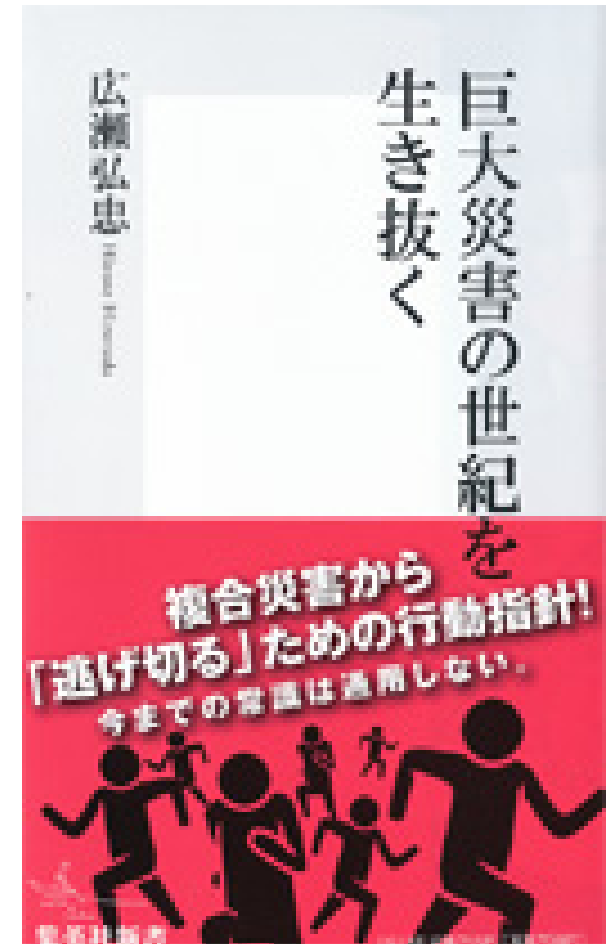


3月9日
JR仙台駅西口バスプール乗り口より
7:10 青葉通 工学部緑地 宮城大・青葉台行き
7:13 青葉通 工学部緑地 宮城大・成田山行き
7:15 青葉通 工学部緑地 宮城大行き
7:19 青葉通 環・工学部 宮城大・青葉台行き
7:57 広瀬通 環・工学部 西の平緑地 長町南駅・長町（宮）行き
このいずれかに乗車 「東北大学川内北キャンパス」（上図の3）あるいは「東京大学試センター前」（上図の5）下車、徒歩7分、建費：150円または
7:20 青葉通 青葉緑地・広葉センター緑地 川内駅南行き
川内駅南行き（上図の5）下車、徒歩1分、建費：150円

公開シンポジウム：大震災と価値の創生 2012年3月
東北大学大学院文学研究科 香港教育学院
<https://sites.google.com/site/tohokuconference311/>

私の発表：人はなぜ敢えて逃げないのか

- 広瀬弘忠『巨大災害の世紀を生き抜く』（集英社新書、2011）を読む
- （引用）「一〇月二日に、NHKが放送した「NHKスペシャルー巨大津波『その時ひとはどう動いたか』」は、地震直後から津波が襲ってくるまでの時間の流れの中における人間行動に迫ったドキュメンタリーである。〔中略〕私はこの番組の制作を協力し、出演もしている。」



広瀬弘忠『巨大災害の世紀を生き抜く』
集英社新書、2011年より

逃げ遅れを生じさせた「心の罠」

「まず第一は、**正常性バイアス**である。地震から津波が襲来するまでに一時間一〇分という十分な時間的な余裕があったにもかかわらず、多くの人々は、危険に気づかず避難しなかった。

第二は、**同調バイアス**である。周辺の人が平静で、何も行動しないので、自分もそのようにして避難しなかった。

第三は、**愛他行動**である。心の痛む話だが、逃げようとしないうちに逃げるときを失って、津波の犠牲になってしまった人がいたのである。」

津波てんでんこ（言い伝え）

「三陸地方では「津波てんでんこ」という言葉があるという。津波が来たら親兄弟も放っておいて、「てんでんに」（自分ひとりで）逃げろというのだそうだ。だが、幼稚園にいる自分の娘をそのままにして、母親がひとり高台に逃げられるだろうか。病気の親をかかえた息子が、親をそのままにして逃げることは可能だろうか。愛他心を持つ社会的動物である人間には、そのような行為は不可能なのだ。「津波てんでんこ」はありえないと思う。」

疑問

1. 人は危険から逃げる。（動物的本能）
2. 人はなぜ敢えて逃げないのか。（道徳的行為）
 - 災害心理学の立場：心の罾に陥ること
 - 行政の立場：犠牲者が増えること

被災地ツアー：女川（七十七銀行支店）



仙台市若林区（浪分神社） → Pilgrimage?

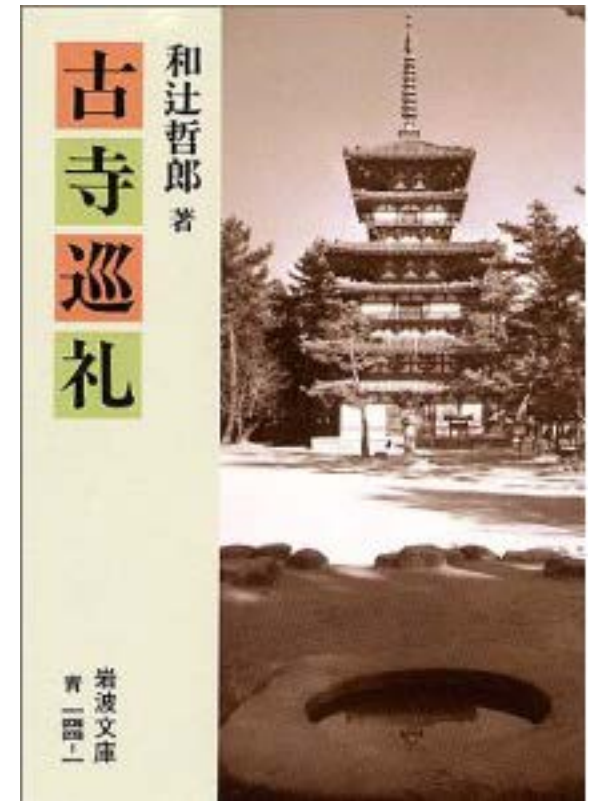


Photo by Bachstelze, from Wikimedia
Commons
[CC BY-SA 3.0](#)

和辻哲郎 『古寺巡礼』 (1919年)

- 改版序 (1946年)

- この書は大正七年の五月、二三の友人とともに奈良付近の古寺を見物したときの印象記である。大正八年に初版を出してから今年で二十八年目になる。その間、関東大震災のとき紙型をやき、翌十三年に新版を出した。当時すでに書きなおしたい希望もあったが、旅行当時の印象をあとから訂正するわけにも行かず、**学問の書ではない**ということを標榜して手を加えなかった。



和辻哲郎『古寺巡礼』
岩波文庫、1979年、p.5 改版序より

- そうしてその数年後、たしか昭和十三年のころに、この書が、再び組みなおすべき時機に達したとの通告をうけた。著者はその機会に改訂を決意し、筆を加うべき原稿を作製してもらった。旅行当時の印象はあとからおせないにしても、現在の著者の考えを注の形で付け加えることができるであろうと考えたのである。しかし仕事はそう簡単ではなかった。（中略）**そのうちに社会の情勢はこの書の刊行を不穏当とするようなふうに変わって来た。ついには間接ながらその筋から、『古寺巡礼』の重版はしない方がよいという示唆を受けるに至った。その時には絶版にしてからすでに五六年の年月がたっていたのである。そういうわけでこの書は今までもう七八年ぐらいも絶版となっていた。**

和辻哲郎『古寺巡礼』
岩波文庫、1979年、p.5 改版序より

巡礼という実践

- ここで張が注目したのは、和辻哲郎が示した「巡礼」である。それは、宗教上の意味での「聖地巡り」・「霊場巡拝」（pilgrimage）ではなく、忘れていた記憶をよみがえさせる「実践」（praxis）である。そして、その記憶とは、日本文化が雑種的にメタモルフォーゼしていった記憶である。現代思想における「巡礼」を通して、西洋近代の価値観を相対化しながら、しかし日本の純血性に回帰しない仕方で、新たな価値創造に寄与しようというのである。
 - 中島隆博「はじめに」『グローバル化時代における現代思想 vol.1 香港会議』（2014）CPAG

著作権等の都合により
省略しました

書影

中島隆博・馬場智一『グローバル化時代における現代思想 vol.1 香港会議』
CPAG、2014年
http://cpag.ioc.u-tokyo.ac.jp/events/post/20140130_booklet1/

2013年5月

被災地巡礼：陸前高田 (記憶装置としての奇跡の一本松)



気仙沼（処分前の第十八共徳丸）



南三陸（語り部バスツアー）



仙台市若林区（浄土寺）



閑上（愛他行動の現場）



福島第一原子力発電所を眺める



0.57 $\mu\text{Sv/h}$

「除染」



仮設住宅訪問



- お金貰っても、田んぼ出来ない
- 何が欲しい？お金じゃない。以前と同じ暮らしがしたいだけ
- 福島を忘れないで欲しい。日本のほかの県の人はまだ楽しく生きている、それはいいことだ。でも自分たちだけ置いてかれている気がする。
- 1年目は泣いてばかりだった。でも2年目に皆で決めたの。もう泣かない、前を向こうね、って決めたの
- 香港の人に伝えて欲しいこと？福島いいところがたくさんあるんだよって言って。観光に来てとは言わない。外国の人は怖いんだろうし。福島きれいなところだよ。うちの家もこんな大きな梁があって、見せたいなあ
(記録：山口潔子)

フィロソフィー・カフェ@郡山



2013 年

5 月 8 日 (水)

午後 6 時から 8 時

郡山地域職業訓練センター

(郡山市清水台一丁目 6-1 TEL024-932-7900)

視聴覚室にて

テーマ: 復興とは何か

参加自由・無料

事前にご連絡いただくと幸いです

哲学カフェとは、一緒に考える場所。問に答えるよりも、耳を傾けること。そして、思い・考えをシェアすること。

「哲学」と肩肘を張らずに自由な意見交換ができればと思います。

私たちは日本研究の一環として、香港から東北を訪ねています。気軽に足をお運び下さい。(もちろん日本語でOK)



2014年5月

浄土寺



2015年6月

東京大学IHS研修「香港中文大学と考える東 日本大震災からの復興と共生の市民社会」



東京大学大学院総合文化研究科
多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)
<https://ihs.c.u-tokyo.ac.jp/ja/schedule/reports/post/000121/>

仙台 (MAKOTO)

亘理郡山元町（いちご農園）



東京大学大学院総合文化研究科
多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)
<https://ihs.c.u-tokyo.ac.jp/ja/schedule/reports/post/000121/>

浄土寺と再建予定地



東京大学大学院総合文化研究科
多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)

イベント報告（引用）

1日目の最後に訪れたのは、仙台市若林区荒浜地区にある浄土寺である。荒浜地区一帯は仙台市において津波被害が最も甚大であった地区の1つであり、津波の映像がリアルタイムでテレビ中継されていたと記憶している。浄土寺周辺は条例により災害危険区域に指定され住居のための建築が禁止されている。そのため、浄土寺の周辺には道路と家の基礎部分だけが残存している非日常的な光景が広がっていた。その中で1軒だけ存在するプレハブハウスが浄土寺の仮設本堂である。（中略）津波災害の性質上、浄土寺のように被災以前への復元という意味の復興が許可されない事例も存在する。長年親しんできた土地から離れなければならない辛さは察するに余りあるが、香港中文大学の学生が発言したように「復興をimprovement（改善）」としなければならないはずである。

東京大学大学院総合文化研究科
多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)
<https://ihs.c.u-tokyo.ac.jp/ja/schedule/reports/post/000121/>

ワークショップ@東北大学



2016年1月

アメリカからの大学生たちとの巡礼

著作権等の都合により省略しました

Luther College ブログの記事

Reflections on the 3/11 Sendai Earthquake and Tsunami
January Term 2016 Course Blogs
Jan 10, 2016

https://www.luther.edu/jtermblogs2016/asia/pilgrimages/?story_id=668896

2017年6月

浄土寺再建（復興した？）



震災遺構 仙台市立荒浜小学校



福島県新地町（漁港）



2018年3月

山田徹導演《新地町の漁民》上映會



2018 年 3 月 10 日(六) 16:00-18:00
香港中文大學崇基學院利黃瑤璧樓 LT2



山田徹監督『新地町の漁師』上映会
香港中文大学 日本研究学系 2018年3月10日
<https://www.jas.cuhk.edu.hk/sc/announcement/film-show-on-fisherman-of-japan/>

香港中文大學日本研究學系主辦

そして香港（2015.3.14）



東京大学IHS研修「香港で考える日本哲学と東アジアの共生」

- 3日目は、雨傘運動に参加した学生3名と共に、占拠された市内中心部を訪れた。ビラや大規模な設備は撤去されていたが、幹線道路の脇には現在も数十のテントが張られていて、学生や支援者が活動が続けていた。運動について説明するボランティアの学生も2人加わり、当時の詳しい状況や運動の現在について聞くことができた。大勢で道路を占拠したときの臨場感を伝えてもらい、学生達と意見を交わせたことは大きな収穫であった。特に警察から催涙弾が放たれたときに悲しいと感じたと、ある学生から聞いたときは、胸が詰まる思いだった。

東京大学大学院総合文化研究科
多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)
<https://ihs.c.u-tokyo.ac.jp/ja/schedule/reports/post/000086/>

- 午後には、中文大学に新亜書院が統合される際に独立した、新亜研究所を訪れた。この研究所は中學校の敷地に間借りする形で設置されており、経営状態は深刻であると同った。伝統的な中華思想を守り続け、かつて著名人を輩出した研究所ではあるが、中国、香港、台湾という3地域の複雑な事情に巻き込まれてしまったのだという。その長い歴史もさることながら、図書館に保存されている資料も素晴らしく、人々が熱心に研究所を支える意味がよく汲み取れた。

東京大学大学院総合文化研究科
多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)
<https://ihs.c.u-tokyo.ac.jp/ja/schedule/reports/post/000086/>

「港（gong²）」としてのホンコン



香港港口與海事處歷史



第一部分



第一章
1841年前
之香港海運



第二章
1841 – 1859年
海港早期發展



第三章
1860 – 1898年
轉口貿易的成立



第四章
1899 – 1940年
邁向國際港口之路



第五章
1941 – 1947年
淪陷與復蘇



第六章
1948 – 1966年
工業化與現代化



第七章
1967 – 1996年
成為世界一流的港口



第八章
1997 – 2010年代初
全新的挑戰與契機

香港海事處 香港港灣局的歷史

https://www.mardep.gov.hk/theme/port_hk/hk/index.html

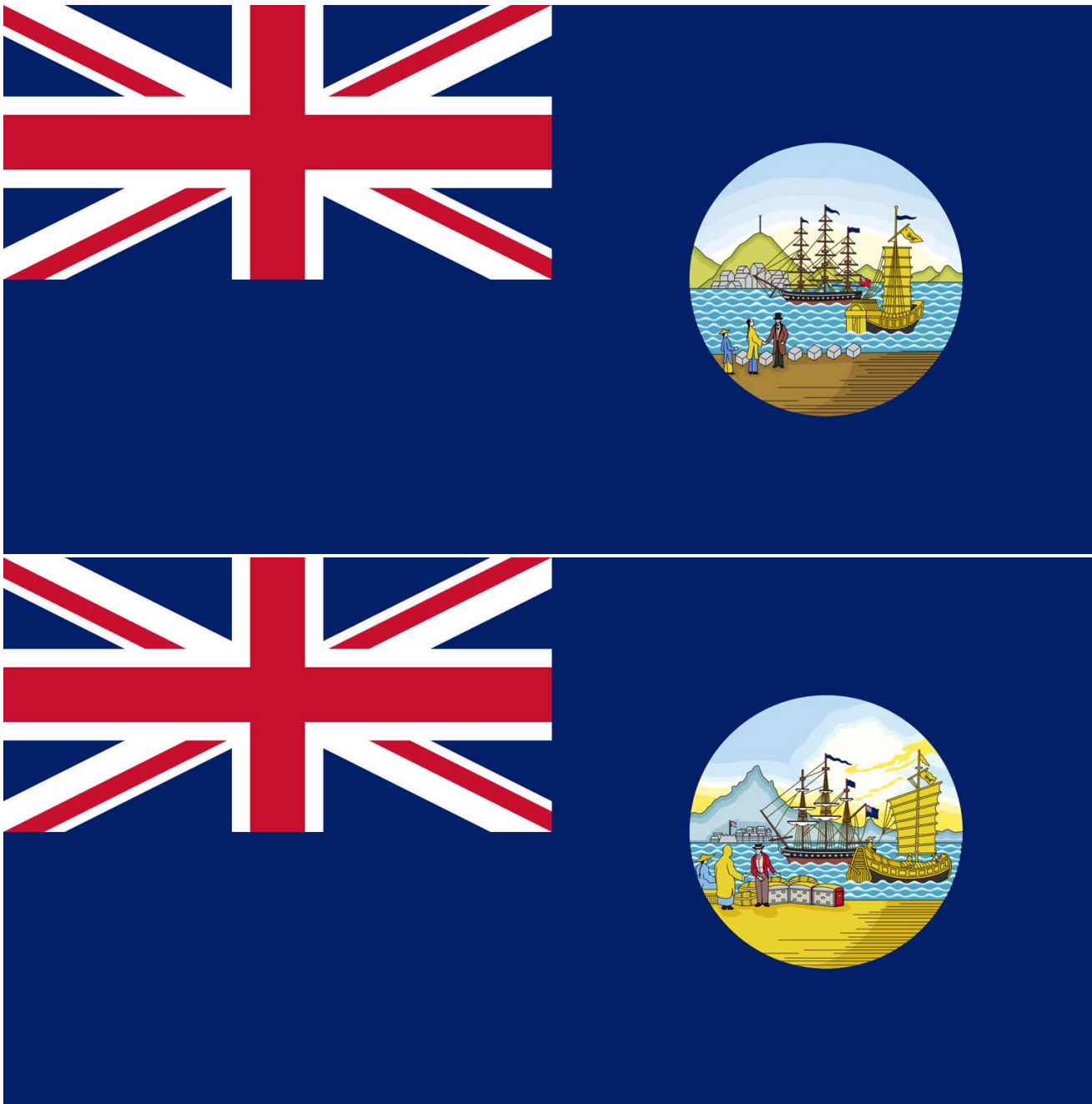
まとめ

1. 1841以前 海運
2. 1841-1859 開港の早期段階
3. 1860-1898 貿易活動開始
4. 1899-1940 国際的な港
5. 1941~1947 陥落と復興
6. 1948~1966 工業化と近代化
7. 1967~1996 世界一の港
8. 1997~現在 新しい挑戦と契機

植民地支配の視点から

- 1840以前 アヘン戦争以前の香港
- 1840-1842 アヘン戦争
- 1842~1941 近代化：「英治時代」
- 1941~1945 太平洋戦争：「日據時代」
- 1945~1997 戦後：再び「英治時代」
- 1997~現在 返還：「ポストコロニアル時代」

→ アヘン戦争以前の香港：パーマストーン氏「不毛な島」？



1876 to 1941, 1945 to 1955

1955 to 1959

Images by Great Brightstar, from Wikimedia Commons
[CC BY-SA 4.0](#)

中心と周辺

- 中心：二河（黄河、長江）
- 周辺：四夷（東夷、北狄、西戎、南蛮）
- 香港：南蛮、漁村、田舎、不毛の島

※「子欲居九夷。或曰：陋，如之何！子曰：君子居之，何陋之有？」
（『論語』子罕）

子、九夷に居らんと欲す。或ひと曰く、陋なり。之を如何せん。子曰わく、君子之に居らば、何の陋か之有らん。

宋王台

- 南宋（1127～1279年）

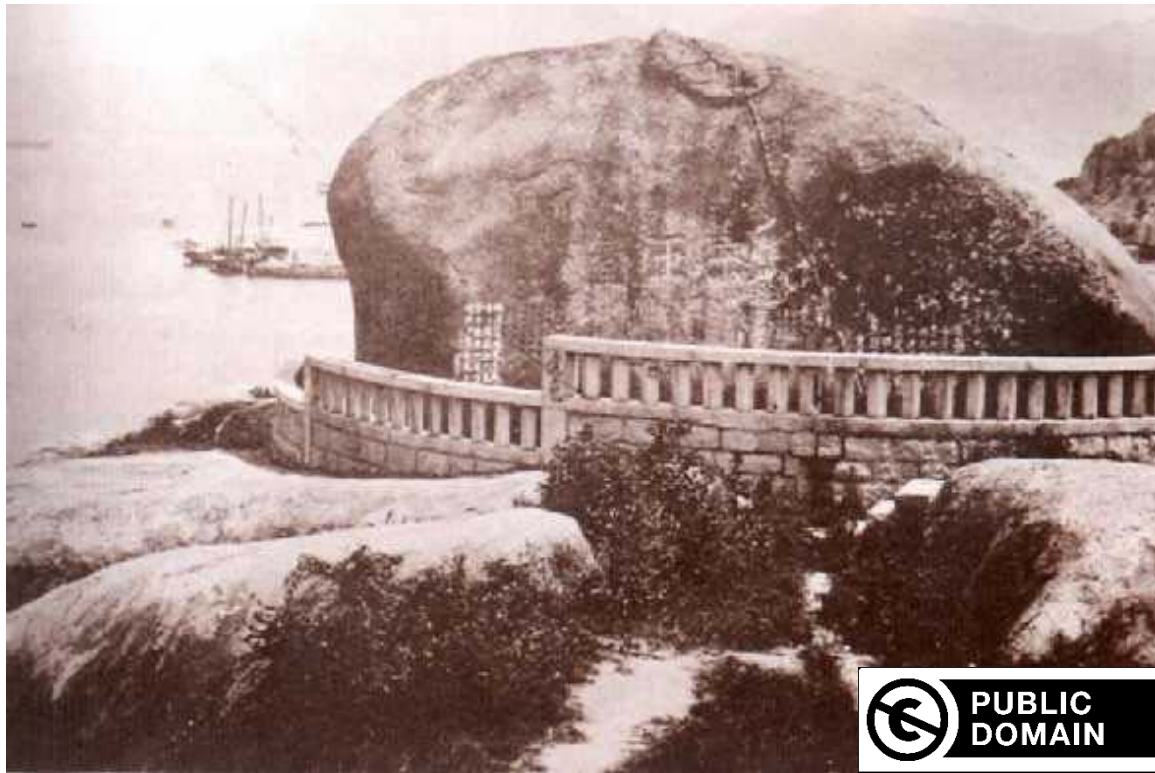


Photo by K.C. Tang~commonswiki, from Wikimedia Commons
[CC BY-SA 3.0](#)

考古学における研究成果

- 鄧聰教授（香港中文大学中国考古芸術研究センター）

「香港是東方的大都會。地下的香港也有豐富古代文化的寶庫。目前在香港和珠江口沿岸已發現近三十處6000至7000年前人類生活過的居址。香港島雖然已高度開發，但香港南面仍然保留有6000多年前的春磡灣遺址。」（《鳳翥龍翔》中国考古芸術研究センター, 2013, p.46）

香港は東洋の大都市です。香港の地下には豊かな古代文化の宝庫があります。現在、香港と珠江河口沿いには、6000年から7000年前に人類が住んでいた30近くの遺跡が見つかりました。香港島は高度に発達していますが、島の南にはチョンホン湾という6000年以上前の遺跡があります。

著作権等の都合により省略しました

香港新石器時代遺物の画像

鄧聰『鳳翥龍翔』
香港中文大学中国考古芸術研究センター
2013年

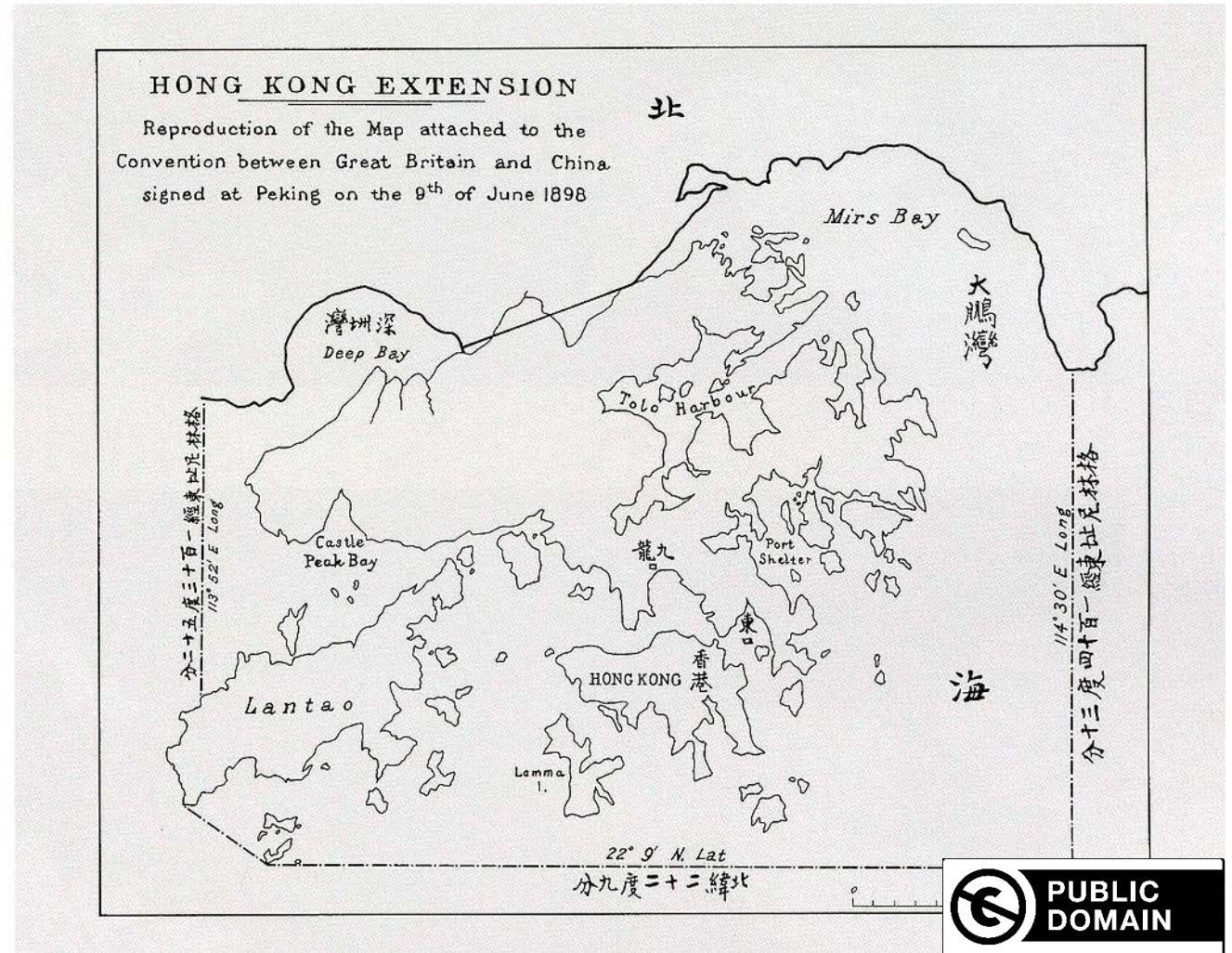
著作権等の都合により省略しました

香港明清時代遺物の画像

鄧聰『鳳翥龍翔』
香港中文大学中国考古芸術研究センター
2013年

英治時代

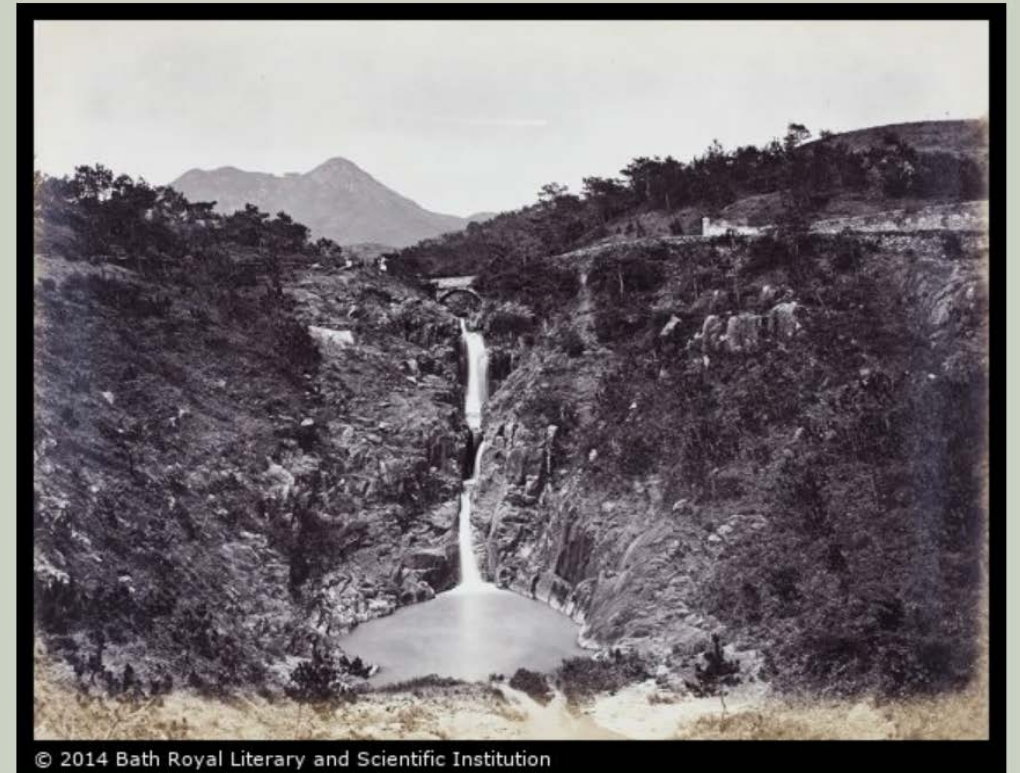
- 1839 虎門銷煙
- 1840-1842 アヘン戦争
- 1842 南京条約
(香港島の割譲)
- 1860 北京条約
(九竜半島の割譲)
- 1898 展拓香港界址專条
(新界租界、99年間)
→1997年「返還」



香港島を狙った理由

- 水深の深い港
 - 大きな船舶でも停泊可能
 - 水の補給が可能
 - 薄扶林 Pok Fu Lam
- (壮語＝チワン語：水の出口)

Waterfall, Pokfulam, Hong Kong



Waterfall, Pokfulam, Hong Kong
Historical Photographs of China, University of Bristol
<https://www.hpcbristol.net/visual/vh03-42>

近代化のあゆみ

- 香港使徒座知牧区を設置（1841年）
- 香港上海銀行創設（1865年）
- スターフェリー一運航開始（1888年）
- 路面電車開通（1904年）
- 孫文、香港で「同盟会（総会）」を設立（1906年）
- 九広鉄路英段開通（1910年）
- 香港大学設置（1911年）

→ 東アジアで最も進歩している「港」

金子馬治（1870-1937, 1903年ドイツ留学）

「歐游以前，予足跡未嘗出國門一步，至是登程西航，漸離祖國。途中小泊香港，登陸遊覽，乃大驚駭。蓋所見之物，幾無不與在祖國所習者異也。據在座之貴國某君言，**香港本一礪確之小島，貴國人以廢物視之，及入英人之手，辛苦經營遂成良港。**予至香港時，所見者已非濯濯之石山，而為人工所成之良港。予之所驚駭不置者，蓋在於是。日本諸港大都因天然之形勢略施人工所成，香港則異是，觀其全體幾於絕出人工，非復自然之原物。此余所不得不嘆服者。」（梁漱溟『東西文化及其哲學』より引用）

(和訳)

渡欧の前、私はまだ一度も海外に行ったこといなかった。西へ出発し、徐々に祖国を離れました。途中、香港に泊まって上陸しましたが、大変驚きました。目に入ったすべてのものは、ほとんど祖国〔日本〕で学んだことと異なっています。ある国の某君の言うには、香港は小さな島であり、あなたの国〔清〕の人々は役に立たないとしましたが、イギリスの手に渡ってから、一生懸命に開拓した結果、良い港になりました、と。香港に着いた時に見えたのは何もない禿山ではなく、人力で作られた良い港でした。ここが驚くべきでした。日本の港のほとんどは自然の状況を若干人工的な方法で作成されていますが、香港は異なります。敬服しなければなりません。

和辻哲郎（1889-1960, 1927年ドイツ留学）

「自分は昭和二、三年のころに右のごときシナ人の性格を瞥見した。それは香港と上海とにおいてである。

香港の九竜側に碇泊した船からながめると、多数のシナ人のジャンクが外国船のまわりに集まって貨物を積み取っていた。そのジャンクには幾家族かのシナの労働者が住んでいるらしく、四っ五つの愛らしい子供たちが甲板に群れて遊んでおり、また若い女や老婆なども帆綱にとりついて働いていた。その光景はまことに和気霽々としたものであった。

ところがその同じジャンクが、へさきにもともにも数門の旧式大砲を据えつけているのである。それはもちろん海賊に備えるための武器であろうが、しかし海賊もまた同じような武器をもって迫ってくるのであろうから、結局それは、このジャンクの貨物輸送の仕事が、脆弱な木船をもって海賊と砲戦することを予想しつつ行なわれていることを示していたのである。

これは自分には非常な驚きであった。砲戦を予想する運輸労働は平時のものではない。しかもシナの労働者は、これを家常茶飯事として、女子供を伴いつつ、平然として遂行しているのである。こういう労働者が世界のどこか他の国にあるであろうか。

和辻哲郎「風土－人間学的考察」
岩波文庫、1979年、p.150より

自分はこの労働者の姿においてシナ人そのものを見るように感じた。彼らは砲撃の危険の前にさえ離れようとしないほどの緊密な血縁団体の中に生きている。そのまわりには同じように緊密な地縁団体の防壁があるであろう。従ってあの多くのジャンクは恐らく相互に助け合うのであろう。しかしそれ以上に彼らの生命を衛るものはないのである。シナの領海の中で海賊の襲撃に対抗するものはただ彼ら自身の力のみであって国家の権力ではない。

従って彼らは無政府の生活に徹底し国家の保護力を予想することなしに生きている。それが彼らの血縁団体や地縁団体を緊密ならしめるゆえんなのであるが、また同時にこの小さい団体を超えた強大な力に対して率直に抵抗を断念し忍従の態度をとるゆえんなのである。ここにかの「没法子」という態度が成り立つ。それは受容的・忍従的な態度でありながら、しかも底しれぬふてぶてしさを蔵したものである。

※「没法子」：仕方ない、あきらめ

この態度が大砲を積んだ本船に家族をつれて平然として生きている姿となって現われる。そこには一家を殲滅せられる危険があり、またそのゆえにこそ大砲を積んでいるのではあるが、しかしその可能的な危険を恐れ、予料的に心をなやますようでは、この生活は営まれ得ないのである。危険が予想せられるからこそ大砲を積んでいる。それ以上に「感情」を動かしたからといって毫末も危険は軽減せられない。危険が可能性に留まる限りこれに対して無感動的であることが最もよき防御法である。

とともに、またこの危険は十分な儲けをもたらさなくてはならぬ。金銭の蓄積はおのれを衛る力の蓄積である。従って危険を冒すことが最もよき防御法なのである。没法子の態度はこのような打算と無感動とを含んでいる。それが無政府の生活の強みなのである。」

和辻哲郎「風土—人間学的考察」
岩波文庫、1979年、p.151より

日據時代

雙方於十八天戰事中的傷亡表			
守軍方面		日軍方面	
陣亡人數：1,555人（一說為2,113人）		陣亡人數：683人	
受重傷人數：約1,330人		受傷人數：1,413人	
被俘守軍：10,947人（包括傷兵）			
十八天戰事期間		投降後	
英人	377	4,695	
印人	713	3,116	
加人	130	1,559	
華人	189	/	
其他	43	125	
（資料主要來源：日本防衛廳防衛研究所戰史室）			

79





高添強、唐卓敏「香港日佔時期」
三聯書店(香港)有限公司、1995年より

香港淪陷後不久，在日本出版的一份音樂雜誌上的宣傳歌歌曲。

三 香港（昭和一九・二一・二五）
陷落させたぞ 香港
東亞侵略 百年の
汚れし歴史の終止符だ
あゝ
攻め立てて八日の
落日と共に
白旗あがる 摩星嶺

香港雜誌刊登的漫畫（下圖及右圖），以宣傳“中日一家親”及美化日對東南亞的侵略。



位於遮打道的《香港日報》社。雖然該報義上是個人經營，但自“七七”事變後其即直接來自臺灣總督府，所以事實上是日官方喉舌。《香港日報》分中、英、日文內容並不一樣。

公 示 (第十二號)

香港占領地內之地名及街路名稱一部
份照下列變更

新 名 稱 英 舊 名 稱 所 在 備 考

中 佳 吉 通	CONNAUGHT ROAD, CENTRAL	干諾道中	香港	馬利士街	海岸通
西 佳 吉 通	CONNAUGHT ROAD, WEST	干諾道西	香港	馬利士街	海岸通
東 佳 吉 通	QUEEN'S ROAD, CENTRAL	告士打道	香港	馬利士街	海岸通
中 明 治 通	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道中	香港	馬利士街	海岸通
東 明 治 通	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
西 昭 和 通	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通
東 昭 和 通	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
西 昭 和 通	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通
東 昭 和 通	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
中 大 正 通	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通
東 大 正 通	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
西 大 正 通	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通
八 日 幡 通	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
春 日 幡 通	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通
冰 川 通	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
豐 國 通	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通
出 雲 通	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
霧 島 通	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通
香 島 通	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
鹿 島 通	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通
香 島 通	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
九 龍 競 技 場	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通
昭 和 廣 場	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
青 葉 峽	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通
大 正 公 園	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
綠 夕 濱	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通
山 王 台	QUEEN'S ROAD, EAST	皇后大道東	香港	馬利士街	海岸通
元 香 港	QUEEN'S ROAD, WEST	皇后大道西	香港	馬利士街	海岸通

昭和十七年四月二十日

香港占領地總督磯谷廉介

山腹通 電車通 山手通 電車通 中央大通 海岸通

有關更改路名的公告。

建於金鐘兵房內的南海神社。



90

君が代

♩=69

きりりー ころー ちよーニー ちよーニ
 きりりー ころー ちよーニー ちよーニ
 きりりー ころー ちよーニー ちよーニ
 きりりー ころー ちよーニー ちよーニ

ササニ くらゐ ちよーニ ちよーニ
 ささニ くらゐ ちよーニ ちよーニ
 ささニ くらゐ ちよーニ ちよーニ
 ささニ くらゐ ちよーニ ちよーニ

コサニ ムーニ ムーニ ムーニ
 こさニ ムーニ ムーニ ムーニ
 こさニ ムーニ ムーニ ムーニ
 こさニ ムーニ ムーニ ムーニ

皇祚連綿兮久常
 小石凝結成巖兮

萬世不變兮悠長
 更巖生綠苔之祥

君が代は千代に八千代に
 さされ石の巖となりて苔のむすまで

(意譯)
 皇祚

由於戰時香港是日本領地，日本的國歌亦自然成為香港名義上的國歌。為了方便華人記誦，日人不僅把意思譯出，並用中文標音。



戰時被日人改作神社
的聖安德烈堂。

91

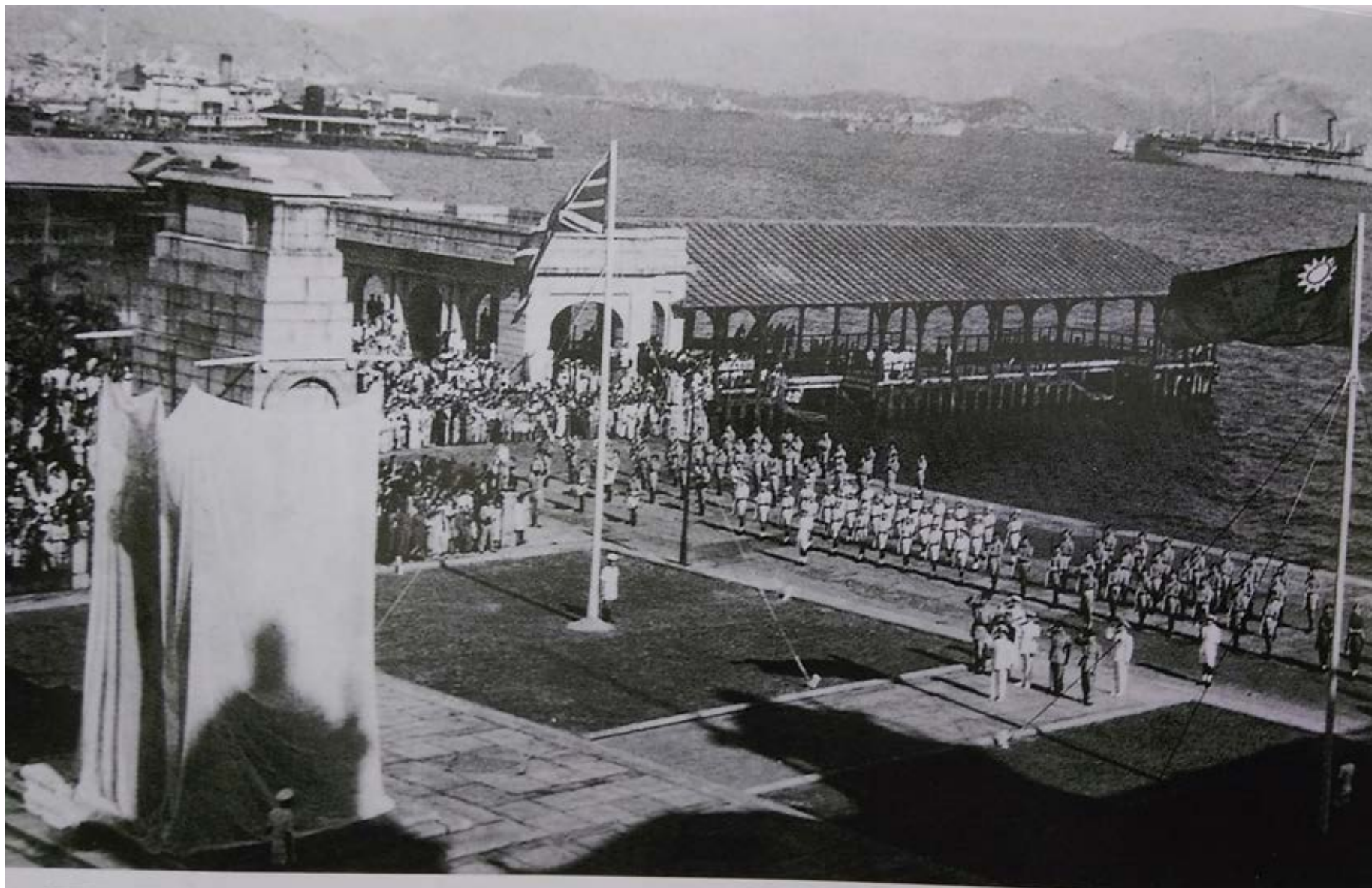
戰前座立於皇后像廣場中的維多利亞女皇像，日佔後不久即遭日人搶掠回國。它在戰後才被發現於一東京貨倉內，但已殘破不全。



160



香港日佔時期唯一出產的電影《香港攻略戰》
兩幅劇照（上、下圖）。當時女演員紫羅蓮不
幸被日人挑選為本片女主角。



日本投降後在中環和平紀念碑前舉行的勝利紀念儀式。

2019年11月 黄泥涌峡巡礼

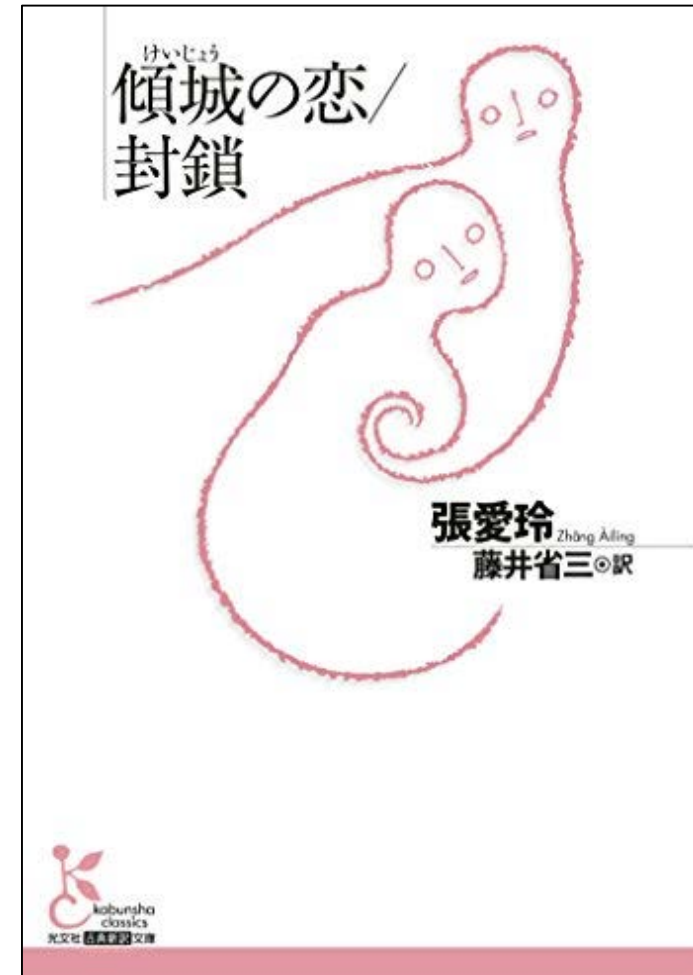


張愛玲：戦時下の文学（Aチーム上級読解）

著作権等の都合により
省略しました

張愛玲『傾城之戀』 傾城の恋
（中国語版）の書影

皇冠出版社 2010年



張愛玲(著)、藤井省三(訳)『傾城の恋／封鎖』
光文社古典新訳文庫、2018年

亡命先としての「港」

- 1949~ 中国から亡命
(新亞書院、香港新儒教)
- 1966~ 文化大革命から亡命
(泳いで香港に渡る)
- 1979~ ベトナム難民の第一収容港
(ベトナム語ラジオ放送、難民キャンプ)

「港」から海外に脱出

- 1984~ 第一次移民時代
(中英連合声明)
- 1989~ 第二次移民時代
(天安門事件、返還前の「駆け込み」移民)
- 2012~ 第三次移民時代、香港人が難民になる
(格差問題、雨傘運動、反送中運動、反国安法運動)

30年後の世界

2050?

- 被災地

- 浄土寺はどうか（檀家減少問題）
- 新地町の漁師たちは漁を再開できるか（廃炉問題）

- 香港

- 一国二制度、高度自治、港人治港、50年不変は？
（移民・難民問題）

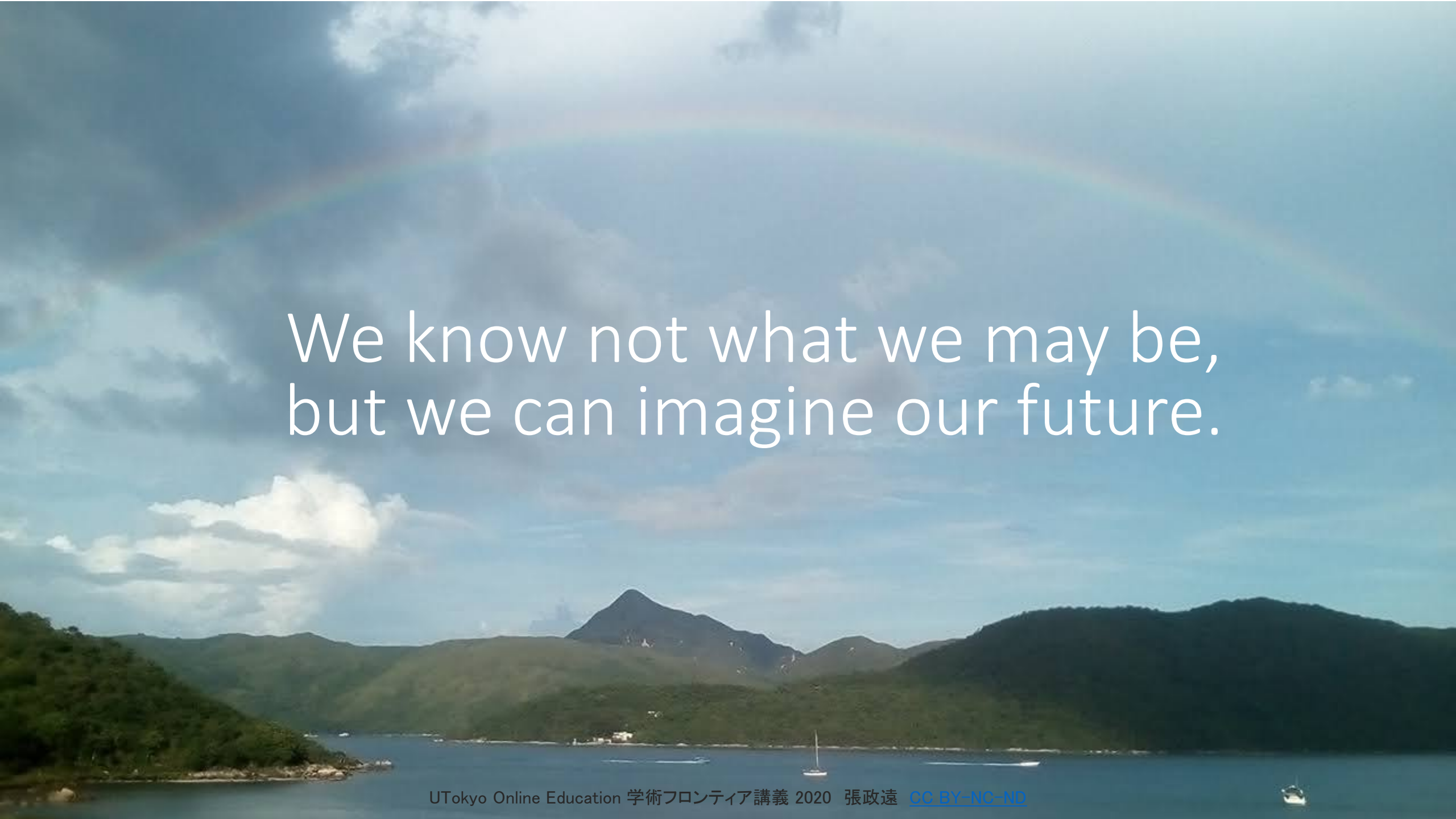
柳田国男 『雪国の春』 (1928年)

- 三陸一帯によくいう文明年間の大高潮は、今ではもう完全なる伝説である。峰のばらばら松を指さして、あれが昔の街道跡という類の話が多く、金石文などの遺物は一つもない。明治二十九年の記念塔はこれに反して村ごとにあるが、恨み綿々などと書いた碑文も漢語で、もはやその前に立つ人もない。村の人はただ専念に鰹節を削りまたはスルメを干している。歴史にもやはりイカのなま干、または鰹のなまり節のような階段があるように感じられた。

→ 忘却への抵抗

How?

- 巡礼する（記憶装置を巡り、人々に出会う）
- 物語る（物語ることは忘却への抵抗である）
- **Connect**する（共生する。共に喜び、共に悲しむ。そして死者の声を聴く）

A scenic landscape featuring a vibrant rainbow arching across a blue sky filled with soft, white clouds. Below the sky, a range of green, forested mountains stretches across the horizon. In the foreground, a calm body of water reflects the sky, with several small sailboats visible. The overall mood is peaceful and hopeful.

We know not what we may be,
but we can imagine our future.